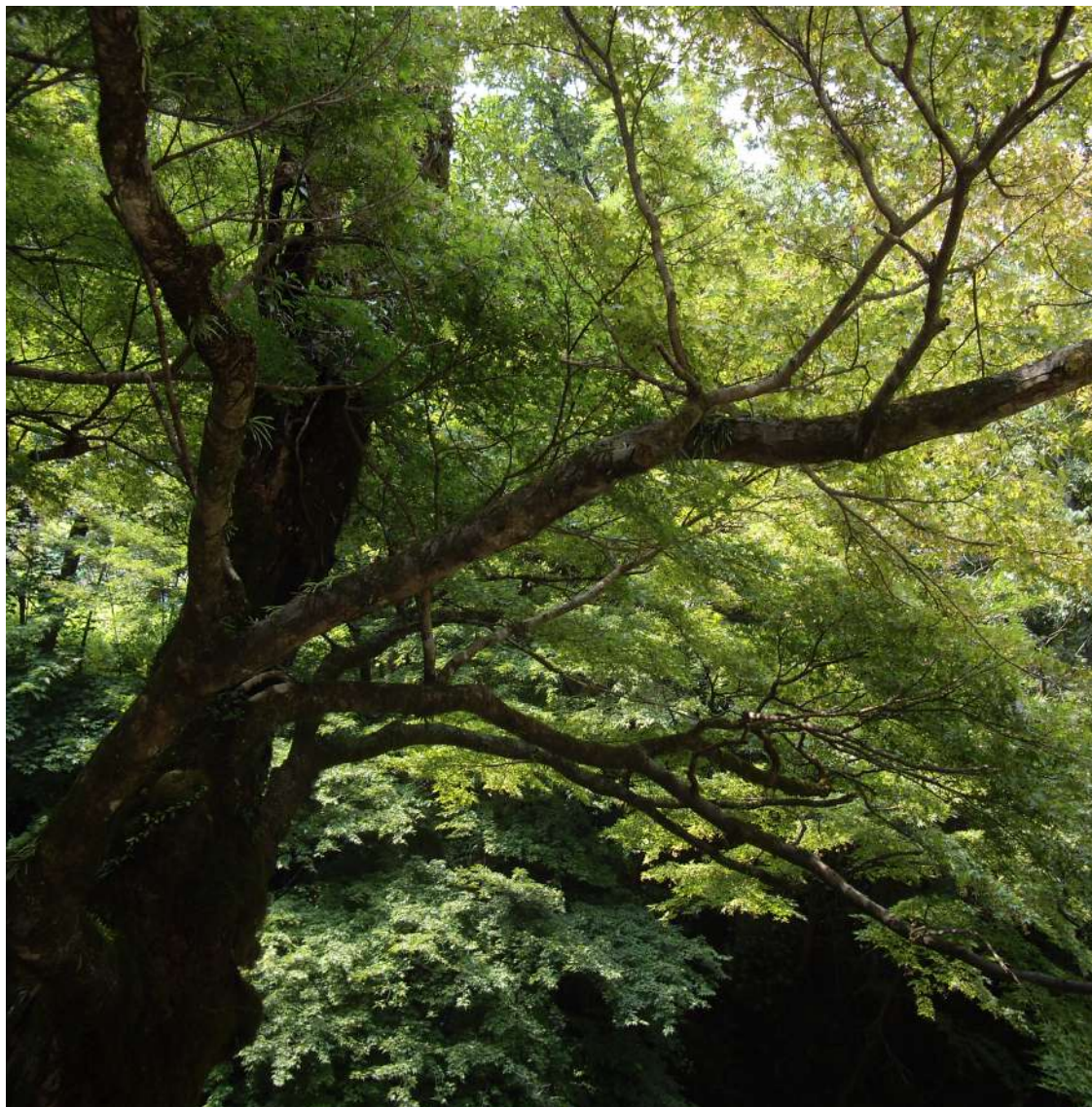


樹 姉 ば よ う

No.116
2014.06



慈悲喜捨

はちす葉の
にぎりしめぬ 心もて
何かは露を 珠とあざむく

古今和歌集 僧正遍照

蓮の葉は泥水の中にあつても汚れないという心を持ちながら、どうして露を美しい珠と欺くのか、の意。
蓮華（ハスの花）が、汚れた所でもそれに染まらず美しい花を咲かせることから、「にぎりしめぬ 心もて」という言葉の裏に花を見せています。

泥水の濁りが濃ければ濃いほど、蓮の花は大輪の花を咲かせるといいます。泥水ではなく、真水に近いようなきれいな水であつたら、蓮の花は本当に小さな花しか咲かせないということです。まことに不思議な生態です。

泥の中から出て、濁った水の中に育ちながらも決して汚されることなく、水面に綺麗な花を咲かせる。その姿が尊いということ、仏教では蓮の花を大事にしていると言います。

仏教でも、お釈迦さまは次のように教えています。うつくしい花を咲かせるために、泥が必要であると。「泥水」を人生におきか

えれば、つらいこと、悲しいこと、大変なことになるでしょう。私たちはいろいろな悲しみ・辛さ・大変なことを経験しない限り、悟ることはできないという教えです。

そんな苦難の時を迎えたら、「ああ、この結果として私は大きな悟りに、美しい世界に導かれていくのだな」と思うことが大切なのです。そう思えば、「泥水」こそが自分にとつてとても嬉しく楽しく、幸せで素晴らしいこと、そして、ありがたいことだとわかります。それをお釈迦様は後世の人に伝えたかったようです。

このように、蓮の花とは、まさに人生の中で咲かせる花であり、そして、その花の中にある実が「悟り」です。つらく悲しい思いがなければ、人間は悟ることができないのだ、ということをお釈迦さまは教えたかったのだと思います。その象徴として、蓮の花が台座に選ばれたのです。

初夏の早朝に、寺院の門前や池、沼地などで咲く、白やピンクの蓮の花を見て、少しでも悟りの境地に近づきたいものです。

教頭 尾内 正彰

校舎建築 途中経過報告

樹徳高等学校校長
野口 秀樹



五月十六日、宿泊を伴う出張を終えて朝九時に出勤すると、木造第二校舎の姿が見えなくなっていました。いわば樹徳の象徴的な建物でしたから、何とも寂しい気分になりました。反面、狭かった校庭が急に広がったようにも思えます。原稿を執筆している現時点は、本館である力誉記念館とそびえ立つ八階建ての正道館、十月まで使用予定の第五校舎とセミナーセンタ―、そして解体途中の第一校舎が立ち並んでいます。

り、このような場合はあまり目にする機会がなく、見逃せません。

私の中では、解体の寂しさよりも、未来を創造する喜びのほうが勝っています。他の学校関係者も同様でしょうし、生徒達も建築技術の素晴らしさに魅せられ、自分の未来の可能性に胸踊らせている。創立百周年に伴う新校舎の建築が、工事中を過ごす本校生たちに意外な副産物を与えてくれました。

工程はまだ三分の一にも至っておりませんが、ひとまずここまでの経過をご報告いたします。

平成二十五年九月三十日に石川・桐生特定建設工事共同企業体（特定JV）と契約を結び、十一月一日から既存の建物の改修工事が始まり、正道館一階にあつた裏庭の駐車場へのスロープを閉鎖し、二つの理科室と準備室を造りました。また、力誉記念館の三階に四教室、一階に三教室を造りました。そして各階の女子生徒トイレを改修。清潔感のある、しかも綺麗なトイレ、あたかもホテルのトイレのようです。ワンフロアーに十三便座がありますが、そのうち八つは温

水洗浄便座にいたしました。もちろん女子生徒にも大好評です。それぞれ平成二十六年三月末に完成いたしました。

男子用のトイレも全て改修しています。五月末には正道館の教室フロア全ての工事が終了する予定です。男子トイレにも温水暖房便座を導入しています。

昨年十一月七日、校庭に隣接しているテナント商店街の取り壊しに際し、感謝の法要を行いました。テナント所有者から購入した土地建物でしたから、学園で使用しておりませんでした。ですが、学校管理職、設計監理者、及び工事関係者が一堂に会し、感謝の言葉を述べ、お酒とお塩を撒いて供養いたしました。

また、昨年末の十二月二十六日には、伐採、移植される樹木への感謝の法要を営み、職員と生徒達が約百五十名参加しました。敷地内の数多い樹木を一つ一つ丁寧に塩で清め、先生方がアカシアや桜の太木に清酒をたっぷり注ぎました。桜は取り木して子孫を継承させる予定です。一年が明けて平成二十六年一月二十四日。第一、第七

校舎の取り壊しに際し、感謝の法要を営みました。こちらも約二百名の関係者が集まりました。

さて、学校でのこのような動きが卒業生の耳に入りました。昭和七年に建てられた、本校を象徴する第二校舎。その校舎への思いを募らせた男性卒業生が、二月の半ばから毎朝学校へ通い始めました。五時四十五分から一時間、生徒や職員が出勤する前に掃除を下さったのです。まずはトイレ掃除から始め、何日もかけてピカピカに磨き上げました。すぐに別の協力者も現れ、お二人で、一階から二階、階段、踊り場、窓枠、壁板などを、毎日磨き込みました。

このお二人は、同時に、木造校舎のお別れプロモーションビデオを作成し、学校の許可を得て、YouTubeで流したのです。この影響も大きく、とうとう、同窓会本部が動き出しました。これを受けて学校は、お別れの見学会を計画しました。告知をお聞きになり、お年を召した方から最近の方まで、多くの卒業生の皆さんが足を運んで下さいました。報道関係の取材もたくさんありました。

そして、四月六日の日曜日、満開の見事な桜の横で、同窓会主催の木造校舎のお別れ会が開催されたのです。模範生も、いたずら坊主も、それぞれの学園生活をしっかりと見届けてくれ、また私たちを育んでくれた木造校舎へ感謝の思いをゆつくりと捧げることができました。

このように、この度の取り壊しについては多くの方々の思いの込められた行事を、皆で丁寧に勤めることができました。

さらに嬉しいことに、平成二十四年の春に卒業した女子クラスが、百周年を記念して、在学中使用した力誉記念館の清掃を三回計画してくれました。第一回目は五月五日、清掃道具を持参した十七人の卒業生が喜びながら汗を流し、綺麗にしてくれたのです。

樹徳は本当に素晴らしい学校です。手前味噌ですがこのような学校が日本にあることを喜ばしく思っております。

そして四月十日、四階建て新校舎の地鎮・起工式が行われ、本格的な工事がスタートいたしました。竣工の日をご期待下さい。

合掌

今月の法語

不安の多くは

行動で解決できる

いい加減

私は、本年度より数学の常勤講師として、樹徳高校に奉職致しました。平成二十六年は、本校が百周年を迎える記念すべき年、新たなスタートを切る年です。

このような年に採用していただき、これからの樹徳高校を創る一員になれたことを大変うれしく思うと同時に、一所懸命に教師としての職務を全うし、若さを活かしながら少しでも学校に貢献できるよう、精進していく所存です。

さて、今回は、私が数学教師を目指すようになったきっかけと、教師としての自分なりの信念について、お話ししたいと思います。

教師を目指そうと思いはじめたのは、小学校六年生の頃でした。当時の担任の先生の生き方がとにかく格好良かったのです。

休みがあれば外国へ行き、お土産話をおもしろおかしく語ってくれました。また、私たち児童を叱った後でも、機嫌が悪いままではなく、普段通りに接するはじめのある先生でした。「はじめをつける」と言葉

で言うのは簡単ですが、実際に実行するのは非常に難しいことです。なおかつ、叱る・怒るといった、感情の制御が難しい態度をとったすぐ後に、普段の通りの接し方をし、笑顔まで見せてくれるというのは、大変なことです。「この先生についていけば大丈夫だ。安心できる」と感じたのを覚えています。同時に、私もこんな人になりたい、と考えるようになりました。

なぜ教科が数学なのか、という理由はとてもシンプルで、「必死に問題を解いて正解したときの爽快感が好き」だからです。数学と

いう教科は、自分で解答の道筋を作り、たった一つの答えに向かって突き進みます。寄り道したり近道したりしながら様々な手段を駆使して問題に挑み、答えというゴールにたどり着く。そのときの爽快感がたまらなく好きなのです。それを生徒たちに味わってもらいたい。数学が少しでも好きになるように、答えを自力で導き出したときの達成感を感じてほしい。そんな気持ちから、数学の教師を目指すようになりました。

今、教壇に立つようになり、生徒が「先生、この問題解けるようになりました！」「スツキリしました！」「スツキリしました！」などと言ってくれるのが嬉しくてたまりません。生徒全員がそう思えるような授業ができたと思います。私は、生徒が問題を解けないのは教員の力不足であると考えているので、分かりづらいところや理解できない箇所があったら、授業中でも、放課後でも、全力で対応したいと思っています。

さて、教員としての私の信念についてですが、「いい加減」、これに尽きます。

これは決して「適当」というわけではありません。「好い加減」、「良い加減」というように、その場その場に適した行動・取り組み・態度をとっていききたいということ。力みすぎない。手を抜きすぎない。そんなふうにするすべてのことに取り組んでいきます。時には楽しく、時には厳しく接し、生徒達が有意義な学校生活を送ることができるよう、自身を成長させたいと思います。

(数学科 金田啓志)

やる気

誰でも空腹になれば食欲が起こり、喉が渴けば水分が欲しくなる。人体に備わった生命維持機構が「欲求」という警告を発して、生存に適した状態に戻そうとするからだ。

英語の欲求 (Want) には「欠乏」という意味がある。つまり欲求とは欠乏の充足である。欠乏状態が充足されると欲求は消滅するが、充足されなければ、欲求はさらに強くなつて緊張状態を作る。この緊張状態が、すなわち「やる気」である。

やる気を喚起する方法の一つに「イメージトレーニング」がある。スポーツの練習などでしばしば用いられているが、学習などにも充分に応用が可能である。イメージの中の自分を励まし続けると自然にやる気が出てくるという。

「ハングリーな人間ほど大きな事を成す」という。本物のやる気が様々な分野で発揮されたとき、予想をはるかに超えた結果が出ることも決して珍しくない。

(カウンセラー室)



桐生錦町一丁目 盛運橋薬局前

■樹徳コミュニティセンター「み法」 6月の行事予定

7日・14日・21日(土) 販売実習

- ①東北復興支援「希望の環」
- ②相田みつを美術館取り扱い商品
- ③樹徳高校「心の暦」
- ④アクセサリー (ネックレス・ブレスレット)



灌仏会に臨む生徒たち



献灯・献華の様子



お釈迦様に甘茶を注ぐ



仏教聖歌を歌う聖歌隊

校内花まつり

花まつりとは、お釈迦様の誕生をお祝いする仏教行事です。日本では原則として毎年四月八日に行われます。これは、お釈迦様が旧暦の四月八日にお生まれになったという伝承に基づいています。

第二学年紹介

第二学年 学年目標

○学力の向上に努め、
進路を明確にする。

○望ましい生活習慣の確立と、
人間関係の形成。

宿泊オリエンテーション

◆毎年恒例の一年生宿泊オリエンテーション。新たな仲間たちと共に本校でのこれからを過ごすきっかけ作りです。
参加する前の不安な気持ちはどこへやら……

▼グループエンカウンター（男子）
すごろくを通して
お互いのことがわかってきます



▼グループエンカウンター（女子）
まずは緊張をほぐしましょう
自然と笑顔になってきます



大滝山荘を望む▲
目にまぶしい新緑が、
新入生を温かく迎えます



鳴神山への道のり▲
いよいよ出発！
元気よく登山道へ向かいます

コース	クラス	担任・副担任
男子部 総合	J1	渡邊信雄
	J2	木村喜文
	J3	花房拓也・篠田正明
	J4	禪野卓栄・ 〔主任〕宮坂伸一郎
	特進	SS 塚田政利
	特進	K 古澤 孝
	進学	S 村上大祐
	学年付き	桜井龍太
女子部 総合	j1	齋藤利一・ 〔主任〕高草木裕子
	j2	松本聡美・佐伯雄二郎
	特進	ss 塚田政利・渡邊秀明
	特進	k 広井 勉
	学年付き	田村行輝
一貫校	5-1	関口 悠・保坂洋美
	5-2	〔主任〕福田 肇

高校総体

第49回群馬県高等学校総合体育大会が5月9日～11日
(陸上競技は15日～18日)に開催され、本校生は今年も大活躍しました!

相撲



- 団体戦 優勝 (7年連続)
- 個人戦 優勝 黒澤勇氣
準優勝 櫻井太良
三位 石原憂・飯嶋直也

卓球 男子



- 団体戦 準優勝
- 個人戦 シングルス 優勝 豊島直人
準優勝 柏瀬将 3位 後藤淳宏
ダブルス 優勝 後藤・吉澤組
準優勝 尾島・豊島組
3位 下田・和田組、柏瀬・町田組

卓球 女子



- 団体戦 優勝
- 個人戦 シングルス 3位 竹内七海
ダブルス 優勝 竹内・久家(鈴)組
準優勝 石井・南雲組

少林寺拳法



- 女子団体演武 優勝 (8年連続)
- 男子団体演武 準優勝
- 女子組演武 優勝 坂下・水田組
3位 小山・小森谷組
- 男子組演武 3位 野中・小嶋組

柔道



- 男子団体戦 関東大会出場 (通算20回目)
- 個人戦 準優勝 狩野未奈

陸上



- 棒高跳 優勝 石川翔太
3位 野村翔太 5位 小林賢佑
- 円盤投 2位 中鉢玲美
- 砲丸投 3位 中鉢玲美 4位 植木佑太郎
- やり投 4位 松島茉都香



第66回春季関東高校野球大会 群馬県予選 優勝

さる四月一二日から開幕した春季関東高校野球大会群馬県予選において、硬式野球部が見事優勝を果たした。優勝は二十二年ぶり、関東大会出場は三年ぶり三回目となる。野平を中心とする強力打線と、主戦ホジヤティの好投がかみ合った。決勝戦の対桐生一高戦では同点に追いつかれた六回裏、四番鈴木本の二塁打を皮切りに四得点を挙げ、試合を決めた。

優勝までの軌跡
一回戦(四月二日) 八〇 前橋育英
二回戦(四月九日) 一〇 前橋工業
三回戦(四月二十三日) 二一 県立前橋
四回戦(四月二十六日) 一〇 高経大付
準決勝(五月三日) 十一 健大高崎
決勝(五月四日) 六二 桐生第一
関東大会の熱戦の様子は、樹妙だより七月号にてお伝えします。

一貫校

中学校

だより

僕は梅田山荘合宿を通して感じたことがたくさんあります。

まず一つ目は登山の時です。最初の方は楽しかったの

ですが、上へ行けば行くほど石がごろごろ転がっていて、時には自分の身長よりも大きい石をも見かけました。その光景に「辛い」とか「もうやめよう」などとも

考えてしまいましたが、皆と声を掛け合い、励まし合っ

な気がしました。二つ目は整列している時に気付いたことです。山荘に行ってから最初は興奮してしまい、なかなか静かになりませんでした。すると一人が「皆、静かにして。時間に遅れると他の人たちにも迷惑になってしまうよ。」と言いました。気がついた人から声をかけあえば、その場に適した行動をとれるのだと気づきました。そして今度からは自分が声をかけられるようになるうと思

一つ目は鳴神山の山登りです。祖父は山が好きで私も一緒に登りましたが、丸〇〇メートル超えの山には初めて登りました。最初は「こんなに高い山を登れるのかな」と不安でした。しかし前に前に進んでいくと小さな滝があったり、人が入れそうな洞窟や、綺麗なお花があつたりと、いろいろな自然に出会うことができました。山頂に着く頃には、大分疲れていたけれど、最後の力を振り絞って無事に辿り着くことができました。

思議な体験は、体が前後左右に動いているか分からなかったもので、自分は素直ではないのかなと思ってしまいました。挨拶じゃんけんや質問すごろくは、入学してから話したことのない子ともたくさん話せる機会となり、とても楽しかったです。

梅田山荘合宿で大変なこともあつたけれど、助け合い、協力しあつて、『絆』や『団結』が生まれて、私にとつてはいろいろなことを学べた良い時間となりました。

て全員頂上へ登ることができました。皆で励まし合

そしてもうひとつ、自分が間違えてしまった時には皆がフォローしてくれるということにも気づきました。今回は僕がフォローしてもらった側でしたが、もし今後同じような仲間がい

お弁当を食べたあと、さらに上に行くと、桐生の街や山が一望でき、とても綺麗でした。みんなで写真撮影をして下山している途中、もう少しというところで雷が襲いかかってきまし

一年二組 須田有香

第1学年 山荘合宿

1年生にとって初めての宿泊行事である山荘合宿が、5月1日～2日に行われました。天候にも恵まれ、一人ひとりが自分のペースで鳴神山登山を始めました。しかし山頂では雨に見舞われ、足下が不安定な中での下山となりました。その後はグループエンカウンターや自学自習など、仲間と共に同じ時を過ごし、互いを知ることができたようです。これからの学校生活を支え合いながら人間関係を構築し充実したものにしてほしいと思っています。



た。皆で励まし合

私 が梅田山荘合宿で体験したことは、二つあります。

二つ目はグループエンカウンターで体験したゲームです。最初におこなった不

樹徳の中高一貫教育

○学校見学会

6月14日(土) 9:00～11:30

○入試説明会

8月3日(日) 9:00～12:00

27年度入試概要・カリキュラム
部活動紹介・施設見学など

お問い合わせは 0277-45-2257 まで

幼稚園だより

新制度の動向と幼稚園教育

幼稚園の現代的意義

学校教育法第三章（幼稚園）において、幼稚園の目的は「幼稚園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健全な成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする」と規定されています。そして、遊びを中心とした生活を通して

して、幼児が様々な体験を重ね、健全な成長を促すようにすることにより、義務教育及びその後の教育の基礎を培うねらいが示されています。

また、幼稚園教育要領（教育課程の編成）では「幼稚園修了までに育つことが期待される『生きる力』の基礎となる心情・意欲・態度など」とあり、幼児の発達の側面から具体的に、



- ①心身の健康に関する領域―「健康」
 - ②人とかかわりに関する領域―「人間関係」
 - ③身近な環境とかかわりに関する領域―「環境」
 - ④言葉の獲得に関する領域―「言葉」
 - ⑤感性と表現に関する領域―「表現」
- と示されています。
- 各領域のねらいとして、幼稚園における生活の全体



を通じ、幼児が様々な体験を積み重ねる中で、相互に関連をもちながら次第に達成していくことが求められています。

幼稚園教育の充実を図り、乳児期から幼児期、幼児期から児童期への発達の流れに対応し、その連続性を確保しながら幼稚園教育を展開していくことが、小学校生活にうまく適応できないなどの課題（小一プロブレム）が指摘されていることから重要でありま

す。「子ども・子育て支援新制度」への対応を検討する中で今日、幼稚園の教育の大切さや重要性が増している

と、強く感じているところ

です。幼稚園として、その期待に応えるため、本園では「不易流行」を大切

特色ある活動

に、教育の一層の充実に向けて取り組んでいます。

母親の社会進出の拡大への対応として、教育課程に係わる教育時間の終了後に行う預かり保育の充実や、終了時間の延長等、働きながら幼稚園教育を希望する方のために、本年度より十八時三十分まで延長しました。また、満三歳児保育についても入園時期について柔軟に対応し、受け入れの拡大や指導内容の充実

に、教育の一層の充実に向けて取り組んでいます。

母親の社会進出の拡大への対応として、教育課程に係わる教育時間の終了後に行う預かり保育の充実や、終了時間の延長等、働きながら幼稚園教育を希望する方のために、本年度より十八時三十分まで延長しました。また、満三歳児保育についても入園時期について柔軟に対応し、受け入れの拡大や指導内容の充実

園児募集

預かり保育の延長（一八時三十分まで）や満三歳児の弾力的入園等、保護者のニーズに応えられるように努めております。

入園をご検討のお知り合いがいらっしゃいましたら、是非ご紹介ください。

※募集人員

年少 四〇名
年中・年長 一〇名

まずは「来園くださるか、お電話にてお問い合わせください。」

0277-53-5571



6 月（正語）の行事予定

日	曜日	高等学校(本校)	一 貫 校	幼 稚 園
1	日	3 年学研 VSP 模試①		
2	月	更衣 前期教育実習開始 LHR	更衣 挨拶運動	更衣 教育実習生受け入れ（～23日） ダンス・文字
3	火	後援会地区連絡委員会 後援会第 1 回役員会	計算オリンピック⑥	避難訓練
4	水	マイトリリー基金拠金日		英語・文字
5	木	授業料納入日	漢字王④	体育・文字
6	金	遠足	英語検定 4 級	園外保育（昆虫の森） 幼交連④
7	土	漢字検定① 英語検定①一次 3 年進研マーク模試（～8日）	英語検定 2 ～ 3 級	
8	日	日商簿記検定①		
9	月	男女合同朝礼 3 年 J j 組三者面談（～13日）	挨拶運動	ダンス・文字
10	火		授業参観① 計算オリンピック⑦	虫歯予防教室
11	水			英語・文字
12	木			体育・文字
13	金	交通安全マナーアップ運動①	交通安全マナーアップ運動①	幼交連⑤
14	土	全学年学研模試（特別課外補習受講者）	学校見学会②	茶臼山親子登山
15	日	ペン字検定①		中央ロータリー サツマイモの苗植え （7:00～ 希望者）
16	月	LHR エイズ予防講演会	挨拶運動	園外保育（梅狩り・桐生市南公園）
17	火		計算オリンピック⑧	代休（茶臼山親子登山） 預かり保育
18	水	珠算競技（～20日）		英語・文字
19	木		食育の日 マイ弁当の日 漢字王⑤ 市街地清掃①	体育・文字
20	金		漢字検定①	プール開き 幼交連⑥
21	土		数学検定①	
22	日	全商簿記検定		開園記念日
23	月	男女合同朝礼 漢字練習開始	挨拶運動	ダンス・文字 幼交連⑦
24	火		早朝自主学习（～7/3） 計算オリンピック⑨	ジャガイモ掘り
25	水	樹の根の会総会 大掃除		年中保育参観 お茶のお稽古② 英語・文字
26	木			年少保育参観 体育・文字
27	金			年長保育参観 幼交連⑧
28	土			
29	日	ビジネス文書実務検定①		
30	月	LHR 出欠統計提出 女子制服アフターサービス		ダンス・文字

※ 3日は高等学校・一貫校・幼稚園の校内安全点検日です



樹徳高等学校
樹徳中学校
樹徳幼稚園

〒376-0023 群馬県桐生市錦町一丁目 1 番 2 0 号
TEL. 0277-45-2258 Fax. 0277-47-1671
〒376-0022 群馬県桐生市稲荷町 4 - 1 2
TEL. 0277-45-2257 Fax. 0277-45-2262
〒376-0013 群馬県桐生市広沢町三丁目 4 4 7 5
TEL. 0277-53-5571 Fax. 0277-53-5572

E-mail office@po.jutoku.ed.jp URL http://www.jutoku.ed.jp/

発行責任者 野口 秀樹
印刷所 太陽印刷工業株

夢は大きく 根はふかく